JEMS
JAPANESE EVANGELICAL MISSIONARY SOCIETY

イースター号
時報：2024年 春

イエスの復活による勝利

カナン・プレイズ・チャーチ主任牧師　長沢 崇史師

先日全くの同姓同名、年齢まで同じという方に初めてお会いした。 しかも彼は4人の子供を持ち、子供たちの男女比も全く同じ。 学年こそ違ったが全員2歳違いというのも同じ。 ついでに昔サッカーをやっていた事やキャンプが趣味など。 流石に鳥肌が立つような被り具合に二人で「ありえない！」と大笑いした。 こんな事もあるのか。世の中には「ありえない」と思える事やエピソードが時にある。 テレビで衝撃映像特集などを見ると「ありえない」とつい言ってしまうこともあるだろう。

実は聖書も一つの事実をありえないこととして書いている。
「しかし神は、この方を死の苦しみから解き放って、よみがえらせました。この方が死につながれていることなど、ありえないからです。」（使徒2：24）

これはペテロが聖霊が下った五旬節に人々に向けて語ったメッセージの一部だが、多くの人はイエスが「復活した」なんてありえない。 と言う。 しかし聖書は、「イエスが復活しない」ことがありえないと語っている。

キリストの十字架によって私たちの罪は赦された。 しかし、もし復活がなかったら罪に対して勝利することはなかった。 キリストが復活したからこそ、私たちは罪に対しても、その報酬である死に対しても、完全な勝利者となることが出来る。 十字架は、復活の事実があるからこそ、完全な神の御業であると大胆に語ることが出来る。 復活こそが私たちの人生に揺るがない勝利を約束した。

では、キリストの復活は私たちの人生にどんな勝利をもたらしてくださったのか？

1. 絶望に対する勝利！

イエスの復活を境に激変した者たちがいる。 弟子たちだ。

先程のペテロが語った箇所は十字架から50日しか経っていなかった。 普通なら悲しみの絶頂にある。 失意のど真ん中にいる。 そんな人間が激変した。 喜びに満たされて、力がみなぎって、イエスこそ救いだと世界中に宣べ伝えていった。 そしてその福音のバトンは今でも世界中を回っている。
その変わりようは作り物なんかじゃない。
命懸けで福音を伝えるに至る変化だった。

なぜそんなに激変したのか？

理由は一つしか考えられない。 本当に復活したイエスと会ったから。（使徒2：32）

決定的な体験が無ければここまでの宣教は不可能だろう。 もしイエスが復活していなかったら彼らはその後も失望の中に生き続けなければならなかったし、私たちに永遠の希望は訪れなかった。 どんなに状況が追い詰められてても、どんなに逆境に会っていても、どんなに先が見えなくても、どんなに長いトンネルを走っていても、最後には必ず勝利が確定されている。（ローマ10：11）

2. 恐れに対する勝利！

弟子たちは失意だけじゃなく、次は自分たちが殺されるかもしれない恐怖に襲われていた。

不安と恐れというのは、私たちの人生に付きまとう。 そしてそれは連鎖する。

昔神学校の後輩たちと富士急ハイランドに行った。 そこにギネスにも認定されているという肝試しがあったので入った。 ゾンビに何度も驚かされて精神的にやられた私は最後の直線でダッシュ。 それを見て他のメンバーもダッシュ。 大の男たち3人がゾンビを恐れて叫びながら逃げるという何とも恥ずかしい姿を晒した訳だが、、、。 一人逃げ出すとみんな逃げる。 誰かがストップする力を持っていなければ、みんなが恐れまどう。

私たちの人生には常にいろんな試練や問題、困難が起こってくる。

そんな私たちに「大丈夫！」と宣言する根拠を与えてくれるものは何か。 それがイエスの復活。 イエスが復活し、弟子達に現れ最初に言った言葉は「平安があなたがたにあるように」。「恐れる必要はない。わたしがいるではないか！」

イエスは私たちが最も恐れる根源である「死」にまで勝利したから。

3. 孤独に対する勝利！

イエスの復活は一時的なものではなかった。今も生きていて、天で私たちを見守っている。 十字架から復活して以来生き続けている。 つまりそれは永遠の命が実証されたことを表す。 永遠の命とは何か？—永遠に神と共に生きること。

つまり、それを信じた瞬間、私たちの人生から「孤独」という文字は消える。 イエスはよみがえり、こう言った。「私は世の終わりまでいつもあなたがたと共にいる。」

イエスが復活し弟子たちに現れた時、トマスだけはその場におらず、彼は最後まで復活を信じることが出来なかった。 そんな彼にイエスは現れ、自分だということを示すため手の傷を見せた。 イエスの傷は消えることはない。 それは永遠に成された愛の御業のしるし。 弟子たちが喜び叫びながらキリストを伝えていくことが出来たのは、素晴らしい教えだったからではない。
人生のためになる考えを学んだからではない。
イエスが復活し、共にいるということを確信出来たから。 このイエスを信頼するものが失望することはない。

私たちの信仰の歩みはこれから勝つか負けるかが決まる戦いではない。

これは勝ち戦。 イエスがすでに勝利しているから。 どんな逆境でもどんな試練でも決着はすでについている。
「あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」（ヨハネ16：33）

神様の恵みは絶えることなく注がれる

カフルイ・ユニオン教会　根本 裕子牧師夫人

「あなたのしようとすることを主にゆだねよ。そうすれば、あなたの計画はゆるがない」(箴言16:3)

私と主人は2019年にアメリカ東海岸のノースカロライナからハワイ・マウイ島に移住しました。 主人はカフルイ・ユニオン教会の日語部の牧師として招聘され、私は同教会のアドミニストレーターとして働くことになったためです。 初めの年は教会のメンバーに出会い、仕事に慣れるために一生懸命でしたが、2020年からは新型コロナウィルスのパンデミックが始まり、私たちが志を大きくして計画していた全てのことができなくなってしまい、非常に落胆しました。 マウイは観光で成り立っている島です。 その全てが静止状態になってしまいました。 皆さんも同じような経験をされたと思いますが、島に観光者は来なくなり、ビジネスは次々と潰れていくという有様でした。 そんな中で唯一、外出が認められたのが海のスポーツだったので、私たちは思いもかけず、サーフィンを始めることになりました。 主人は以前日本でサーフィンを経験していましたが、40年も前のことで、初めてと同じようなものでした。 私はサーフィンの「サ」の字も知らなかったので、初めは、膝を痛めたり、怪我をしたりで、悪戦苦闘の毎日でした。 そんな中で、たくさんの日本人のサーファーと出会うことができ、マウイ在住の日本人と繋がる機会が与えられました。 教会ではソーシャルディスタンスを守りながら、通常に礼拝が行えるまでに一年半かかりました。

2021年からは日語部で地元の日本人の方々と一緒にクリスマス会を始めることができ、昨年で3回目を迎えました。 同時にゴスペル・フラ・ミニストリーが始められ、イースターとクリスマスの礼拝でのパフォーマンスに向けての練習を毎週するようになりました。 感謝な事に、昨年9月に新しく英語部に招聘された牧師の夫人が日本人のフラのインストラクターでしたので、本格的な指導をしていただくこととなりました。 現在では教会の日語部・英語部含めて20人以上が参加しています。 このミニストリーを通して、礼拝や集会に参加される多くの人々に福音を伝えることができることを願っています。

マウイ島で昨年8月に大火災が発生しました。 火災は一番被害の大きかった西部のラハイナだけでなく、反対側のクラとキヘイの街でも同時に発生しましたが、幸いラハイナ以外の地区では火災は大事に至ることなく、食い止めることができました。 ラハイナでは、おりからの記録的な強風のため火災は直ぐに食い止めることができずに、街全体が丸ごと焼失してしまいました。 ラハイナの地域は観光地として知られている街でしたので、観光で成り立っているマウイ島全体にとって大きな打撃を受けました。 地域に住む多くの人たちは家ばかりではなく、家族や友達を亡くした方もいました。 マウイ全土の観光関係のビジネスは落ち込み、慢性的な住宅不足により、被災者の中には、どこかのお宅の一室で過ごされた方も多くいたと聞いています。 火災が酷かったのは、ラハイナの繁華街の中心地の海沿いでしたので、多くの人が逃げ場所を失い、火災がおさまるまで10時間以上海の中で時間を過ごした方々もおられました。 被災者の中にはPTSDを患ってしまった方や、生活が困難になっている人も多くいると聞いています。 火災から6ヶ月が経ちます。 国の公的機関や多くのクリスチャン支援団体が彼ら被災者のための支援を行っていますが、まだまだ被災者の方々はこれからの行先がどうなるのかと不安を多く抱えておられます。 マウイ全体の経済活動も立ち直って来たとは言え、火災前の状態には戻っていないので、これらのことについてお祈りしてくだされば感謝です。

そんな中で、つい最近の恵みをお分かちいたします。 2月1日から4日間、日本から東京ホライズン・チャペルの平野耕一牧師率いる、総勢21人のゴスペル・プレイズ・クワイヤがマウイを励ましにやって来て下さいました。 いくつかの高齢者施設、レストラン、また被災者を収容しているラハイナのホテルのロビー、ビーチでパワフルなパフォーマンスを披露してくれました。 被災された方々がゴスペルソングを通してキリストの福音に触れることができて、励まされたことと思います。 教会でもコンサートが開催され、平野耕一牧師の力強いメッセージをいただいて本当に感謝でした。 私たちの教会員や、近隣の方々も含めて、予想以上の方々が集まってくださいました。 本当にマウイに素晴らしい励ましをもたらしてくださったゴスペル・プレイズ・クワイヤに心から感謝しています。 私たちは、初めはこの21人全員をどのようにお世話することができるか不安でしたが、カフルイ・ユニオン教会が一つとなって彼らの働きをサポートすることができたことを感謝しています。

私達はマウイに移ってからこの3月で丸5年になります。 いろいろな試練の中を通らされましたが、神様の恵みはどんな状況にあっても変わらずに、常に脱出の道を備えてくださいました。 マウイの火災からの復興はまだまだ先になると思いますが、希望を持って共に祈り続けていただければ幸いです。 また、カフルイ・ユニオン教会も高齢化が進んでいます。 教会が伝道活動と弟子訓練とに燃え、何よりもマウイにリバイバルがもたらされることを願っています。 どうか皆さんの祈りに覚えてくださると感謝です。

配管工からJEMS日本宣教ディレクターへ、そして再び配管工へ

藤間 ロイデン

2003年

「このように、私たちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。希望はわたしたちを欺くことがありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。」（ローマの信徒への手紙5章1節-5節）

2024年2月5日月曜日、日本宣教ディレクターとして6年半仕えてきたJEMSの仕事を終えることになりました。 当時JEMSにおいては20年以上この役を担う者がいなかったため、私は白紙状態でスタートラインに立つことになりました。 それゆえこれから何か良きものを生み出していけるという希望を抱くことができました。 ただ主の導きだけが頼りでした。 私自身は、期待感と共に恐れも感じておりました。 どこから何を始めるべきかもわかりません。 しかし、主が私にこの仕事を備えてくださっていることは確信できました。

ここで私が辿ってきた歩みを少し振り返り、主のご計画と導きに目を留めたいと思います。

私は45歳のときに、主の召しを受け、宣教活動を始めました。 そして2003年から2017年にかけて14年間、妻と私は日本に宣教師として遣わされました。 最初の8年間は、沖縄で過ごし、2011年3月11日の東北大震災後、2年間宮城県石巻で主に仕えました。 最後の4年間は、山口県岩国に移りました。 日本に行く前は、私は様々な宣教活動に参加し、トーマ配管業という配管の会社を営みながらも神学校で学んでおりました。

日本では、私たちは、沖縄で二つ、石巻で一つ、岩国で一つ、計四つの教会に仕えました。 四回引っ越し、3人の子供たちのうち2人の子供をアメリカの大学に送りました。 私たちは災害救助、街頭伝道、キャンパス伝道、そして家族伝道など様々な宣教に携わりました。 様々な困難な状況の中に置かされましたが、それらの苦労が後の仕事の礎となることなどその時には思いもしませんでした。

石巻の時代、妻、ナンシーと私は真に燃え尽き症候群となってしまいました。 その時期は、私たちは結婚生活ばかりでなく信仰生活さえ危機に直面しておりました。 それらの大変な時を主によって乗り越えさせていただくにはしばらくの時が必要でした。 その苦闘の時、主が示してくださったのは、JEMS日本宣教ディレクターへの招きだったのです。 主のご計画と導きに心から感謝しました。

そしてナンシーと私は岩国に引っ越し、JEMSの宣教師として、日本での最後の4年間を過ごしました。 そこで私たちは、JEMSの組織やスタッフたちのことなど、大切な学びをしました。 日本人責任者や指導者がいない田舎の小さな組織で共に働くことは大変なことでした。 身近な困難を経験しながら必要とされる改革を見定めていくことが必須でした。 それらの体験も今は感謝です。

さらにこれらの宣教活動のうちで最大の障害となるものがありました。 私自身の問題でした。 私には難読症（dyslexia）という障害があります。 非常に小さい時から、普通の子供たちのようには学習ができないと診断されていました。 私の両親と学校の先生方は、私が読むことが出来るように苦労して教えてくださいました。 私は知恵遅れ、あるいは怠け者とレッテルを貼られました。 しかしその後、神様の恵みによって、また私なりの勉強法を学び、大学も神学校も19年かけて終えることができました。

この闘いは、神様からちょっとでも離れたら何もできないことを私が悟ることの大きな力をなりました。 これは奇跡以外の何ものでもありません。 私はアメリカに戻り、JEMSの日本宣教ディレクターとして、神様のために働き続けました。 以前とは全く違う形で神様を追い求め、神様から授けられた宣教の職務を全うすることが求められました。 神様の言葉を学び、祈ることが、私の伝道活動の大前提となりました。 神様が与えてくださった障害を感謝します。

結論として、私は神様が与えてくださったJEMSの仕事を感謝しています。 JEMSのためにこの仕事をなし終えることができたことを感謝します。 私は神様がこれからどのように私の宣教を祝してくださるかが楽しみです。 私は母の面倒を見なければならず、排水管の仕事に戻ります。 同時にここ南カリフォルニアでさらに人々をイエス様に導いていきたいと思います。 このイースターの祝福が皆様の上に注がれますようにお祈りいたします。 神様の栄光を仰ぎます。

JEMS日語部

JEMS日語部コーディネーター　**藤本 三奈子**

2024年もJEMS日語部の働きのためにお祈りとサポートをよろしくお願い致します。

第75回JEMSマウントハーモン修養会

2024年6月30日（日）～7月6日（土）

日語部講師 / 福野正和牧師（RCI南大阪福音教会） / 長沢崇史牧師（カナン・プレイズ・チャーチ）

修養会場のお部屋は満室となっています。 修養会場近くに宿泊しての参加も可能です。
ダイニングホールでの食事を希望される方は、人数に制限がありますのでお早めにお申し込み下さい。
https://www.mounthermon.org/events/jems/ から、Register for Program and Meals (No Housing)：$642 または、Register Program Only (No Meals or Housing)：$375 をお選び下さい。

JEMS
JAPANESE EVANGELICAL MISSIONARY SOCIETY

RETURN SERVICE REQUESTED

Non-Profit Org.
US Postage
PAID
Los Angeles, CA
Permit 2112

JAPANESE EVANGELICAL MISSIONARY SOCIETY
948 East Second Street
Los Angeles, CA 90012-4317
Tel: 213.613.0022
E-Mail: info@jems.org
Web: www.jems.org

JEMS – 日語部 支援 : NICHIGO-BU SUPPORT

☐ 日本語部とスタッフのためにお祈りいたします。

☐ 日語部の働きのために　毎月 $ _____ 捧げます。(　　月　　年まで)

☐ 今回 $ _____ 捧げます。

Name _____ Phone _____

Address _____ City _____ State _____ Zip _____

E-Mail _____

チェックのあて先は**JEMS**とお書き頂き、Memo欄に**Nichigo**とご記入下さい。

JEMS　P.O.BOX 86047 Los Angeles CA　90086-0047　電話: 213-613-0022

※オンライン献金 **https://jems.networkforgood.com/projects/10875-minako** もご利用頂けます。

編 集 後 記

西原 黎子

昨今、砂漠の地ロサンジェルスに大雨が降りしきる。 4日続けて間断なく降り続ける雨に心が閉ざされる思いがする。乾ききった大地に降る雨は、神様からの恵み、贈り物と歓声をあげたものだったのに、今は恨めしい思いで濃い灰褐色の雨雲を見上げる。 ようやく雨がやみ、近くの公園に歩きにでかけた。 水分をいっぱい吸い込んだ木々の緑が目に飛び込んでくる。 神様が造られる自然の業に清々しい思いに充たされる。 どんな状況下においても辛いことに出会っても、神様は必ず益にしてくださるという聖句(ローマ8:28)が浮かんできた。

新しい世界への出発！来るイースター・サンデーが抜けるような青空がいっぱい広がる輝く日となることを祈ってやまない。イエス様の復活のお祝いの日だから。